

安庭小学区に残されている源義家伝説

※本校の学区に残されている義家伝説、そのまま地名になっている所もあります。

＜七日休み＞

紫波から安倍氏を追って進軍した八幡太郎義家公の大軍は、滴石に入ろうと峠にやって来ました。広々としたどろの木の林です。ものすごい大風でどろの木は倒れそうです。こんな大風では滴石に入っても戦はできないだろうと野宿をすることにしました。翌日になっても止みません。とうとう七日間も野宿してしまいました。そこで、この峠を「七日休み」と名付けました。

＜しばりの明神＞

「七日休み」を出発した義家公の軍は、矢櫃川沿いに滴石に入りました。しばりつけられるような狭い谷間をやっと通り抜けた義家公は、この地に戦勝を祈願して一社を建立して「しばり明神」と名付けました。今の堀合神社です。昔は川ばたにありました。

＜町場＞

義家公の大軍が滴石に入ったとの報を受けた矢櫃館ヶ沢にいた「旗越前」は、とてもかなわぬと退却することとしました。矢を櫃に入れて川に流し、町場で待って拾い上げたといいます。そこで、この地を「町場」と呼ぶこととなったといいます。

＜矢櫃＞

義家公の軍は桂部落まで来て、いよいよ戦の準備をしました。櫃に入れて背負って来た矢を取り、櫃を矢櫃部落の方へ捨てたのでこの名がついたといいます。

＜才市家の観音様＞

才市家は、元御所開発の祖といわれています。才市家の観音様は「馬頭観音様」で、昔は部落のはずれの下の方にありました。義家公が安倍氏討伐に来た時、この地で義家公の馬が怪我をしました。そこで、この社を建てたのだといいます。

＜出典は、雫石町史＞